

イトトマの挿し芽増殖による早期開花

[研究のねらい]

イトトマは近年、市場人気が高まりつつある花壇苗です（写真 1）。通常、種子繁殖されますが、播種後の初期生育が遅く出荷までに長い期間を要することが問題です。そこで、イトトマの挿し芽増殖技術の開発を行い、花付き苗としての出荷までの日数の短縮を図ります。

[研究の成果]

- ①288 穴セルトレイを用いてイトトマを挿し芽増殖することにより、根鉢形成が促進されるため種子増殖と比べて約 1 ヶ月鉢上げまでの期間を短縮できます。その結果、開花（出荷）も種子増殖より約 1 ヶ月早くなります（図 1）。
- ②挿し芽による増殖は周年可能ですが、8 月～12 月に挿し芽を行った場合、鉢上げ後 3 ヶ月を経過しても開花に至りません。2 月～6 月に挿し芽を行うと 4 月～9 月にかけて開花するため、花付き苗としての出荷が短期間で可能になります（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

- ①挿し芽増殖により栽培期間が短縮されるため、施設の利用効率が高まります。



写真 1 イトトマ「ブルースター」

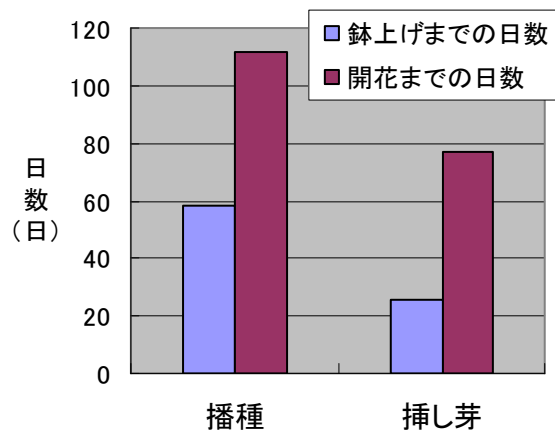


図 1 イトトマの増殖方法と生育日数

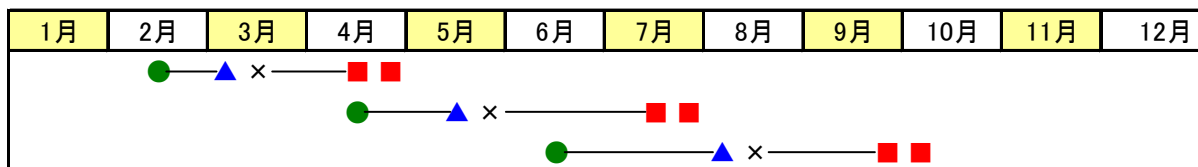


図 2 挿し芽増殖によるイトトマの作型

●:挿し芽 ▲:鉢上げ ×:摘心 ■:開花(出荷)

実施年度：平成 9～11 年度

担当者：島 浩二・本田孝志・岡本晃久・妹尾明枝